

○ 1 番（上田雄一君）〔登壇〕

皆さんこんにちは。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、これより 1 番上田雄一の一般質問をさせていただきます。

質問に入ります前に、少々お時間をいただくことを御了承願います。

皆さん、この少年、御存じでしょうか。（写真を示す）見えますかね。福岡市西区在住の中学 2 年、14 歳の大崎幸一君です。彼は、お父さんが武雄市出身、お母さんが多久市出身の方なんです。小学 6 年生の運動会の後、全身がむくみ、近所の病院で大学病院を紹介され、検査を受けると、重症の特発性拡張型心筋症と診断されました。それから 2 年半、難病と闘っておられます。幸いアメリカのコロンビア大学病院に受け入れていただけるようになり、海外での移植ができるようになったそうですが、保険のきかない海外では、渡航費、移植医療費、滞在治療費などで約 9,000 万円の費用が必要とのこと。幸一くんを助ける会の皆さんも、献身的な募金活動を頑張っておられます。市役所を初め、市内いろいろなところに募金箱が設置されております。そのほかにも、募金専用口座、電話による寄附など、さまざまな方法が準備されており、詳しくはネットで「幸一くんを助ける会」で検索すれば、すぐヒットしますので、御確認いただきたいと思います。

一個人について、ここまで言うのはふさわしくないかとも考えました。しかし、私も子を持つ親として、御両親の気持ちを考え、我が身に置きかえて考えた場合、助けられるのであれば何とかして助けたいと。わらをもすがる思いというか、そういう思いでいらっしゃる両親の気持ちを考えると、いても立ってもおられず、御紹介させていただきました。皆さん、ぜひ御協力よろしくお願いいたします。

それでは、今回の質問ですが、市長の具約について、スポーツ振興について、以上 2 項目の通告をさせていただいております。通告に従って、質問させていただきます。

さきの議会にて関連して質問させていただきましたけれども、具約の 32「子育てならば新・武雄市」と呼ばれるような新たな事業を行い、特に、初年度は三人目の児童をお持ちの世帯の負担軽減策を行い、順次拡張を検討します。」、この項目ですけれども、さきの議会で私が少子化対策と絡めたので、ちょっと話がおかしくなったと自分自身反省しておるところですけれども、その子育て支援について、12 月議会で私の一般質問から端を発し、この 3 月議会において、早速、障がいを持つ子供たちの就学前医療費における条例改正案を上程いただき、来年度の当初予算からの対応といい、市長を初め、執行部の皆さんの対応、さらにはそのスピードにしても申し分なく、大変感謝している次第です。

それはそれとして、そのときの答弁として、「具約の性格を申し上げますと、政策のメニューを並べたものである」「私が書いたときの気持ちと、それと、今の気持ちというのは若干ながら変わっております」という答弁でした。今、武雄市は厳しい財政状況の中で鋭意努

力されているということは承知しております。しかし、市民の皆さんは、この具約をもとに市長に投票し、今の樋渡市政があるわけで、全国的にはマニフェスト選挙が定着しつつある中、マニフェストを実行しない首長が出ていることが取りざたされております。幸い我々武雄市民にとって極めて関連性が高いのは、樋渡市長、そして古川知事のマニフェストだと考えます。市長並びに知事におかれて、私個人としては、比較的実行されている割合がかなり高いのではないかなと思うわけですけど、この3人目以降の負担軽減策について、改めてどのようにお考えになっているか御答弁願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御答弁申し上げたいと思います。

まず、具約の32の部分につきましては、「「子育てならば新・武雄市」と呼ばれるような新たな事業を行い、特に、初年度は三人目の児童をお持ちの世帯の負担軽減策を行い、順次拡張を検討します。」と。「さらに、交通至便のところを念頭に「子育て総合支援センター（児童館）」を設置し、子育ての総合的支援を図ります。」といったことを書いております。そういう意味では、ここに書き方として、開始年度と予算をバーで引いていますので、その時点で、ちょっと私が候補者だったときに、幾らぐらいかかるのか、ようわからんやっただ。しかし、20年度から検討を開始しようといったことで、もう既に子育て総合支援センターは御案内のとおり設置をし、拡張を今考えているところであります。

その中で、先ほどちょっと御指摘がありました。さきの議会で、私、マニフェストは実現すべきものだというふうに理解をしておりますけれども、2つ変わることがあります。それは、市長となって、さまざまなまた意見が寄せられてまいります。これはどういうことかという、例えば、これはさきの議会でも申し上げましたけれども、本当にお困りの方、社会的公平性から、困っている方のところに集中的にさまざまな施策を行うことが、恐らく税金のきちんとした使い道として、それは筋なんじゃないかというふうに思っていると。あわせて、これは3人目の部分と申し述べておりますけれども、子育ての拡張は今でもやりたいというふうに考えているということ。それと、ライフラインであるとか、これは繰り返しになるかもしれませんが、生活に直結したところを下げることに、やっぱり優先的に意を用いたい。なぜこういったことが私が申し上げたかということ、これも前回の議会で申し上げておりますけれども、やっぱり財源の裏づけがきちんとないものについては、なかなか二の足を踏めないということ。それともう1つが、私が候補者だったときと財政環境がまた激変しております。そういった意味からすると、1年たち、今もう2年たとうとしておりますけれども、その取り巻く社会的、あるいは財政的環境が非常に悪化しているといったことからすると、ますます何を、何をすべきじゃないかということ。ただ、我々とすれば、こ

これは政策メニューでありますけど、なぜこれを書いたかという、やっぱりお子さんを持つ家庭の負担軽減策を行いたいということがありますので、まだこれは別にあきらめているわけではありません。これは前の議会でも、そのように申し上げているとおりであります。しかし、やっぱりさまざま考えなきゃいけないことがあると。それと、先ほど申し上げたとおり、具体的には、御紹介がありましたように、障がいをお持ちの方が非常に困っているといったこと。それと、ライフラインからすると、水道料金の話であるとか、やはりそれは財源の裏づけが必要となります。まず、そこを優先的にやりたいと。その上で、これは位置づけもきちんとかめた上で、残された4年の、まだ時間がありますので、検討したいというふうに思っております。

その上で考えなければいけないのは、これはぜひ4月以降設置しようと思っておりますけれども、企画部の中に、今までのいろんな手当てがあろうかと思います。合併協議会で生じたような手当て、あるいは旧市、旧町から引き継いで、それが今、全市に拡大している手当て、これの政策目的も含めて洗い出し、検証をやりたい。その上で、その部分に政策目的と合致しない、あるいは無駄が生じている部分については、それを財源として、こういったものに充てたいというふうに考えておりますので、ちょっといましばらく時間を与えていただきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

先ほどの答弁を聞きまして、少し安心しました。前回の答弁のときは、ちょっとこれはあきらめんさったごたあふうな雰囲気も私個人はしよったもんやっけんがですね。雰囲気がそういう感じで受け取ったもんやけんがあれですけど、残りの任期でもぜひ検討していきたいという前向きな答弁をいただきましたので、安心しました。

その中で、今話が出よった中の、いろんな手当て等々とかという話でしたけど、私もいろいろ、何とか無駄が省けんかなとか、いろいろ自分の中でも決算書なり予算書なりをずっと見よったですけど、やっぱりなかなかかなとですね。その辺の洗い出しをしていただけるということで、ぜひ子育て支援の財政的な支援というのはやってほしいなと思うところであります。

私も親として思うところもありまして、財政的な支援の中で、今現在、武雄市においては出生祝い金、生まれたときに1万円のお祝いを武雄市が出されておりますね。旧町、合併のときからのいろんな経緯があるようですけども、子供たちがこの世に誕生したお祝いを武雄市が行うということは非常にいいことで、子供が生まれたときなど、何かと物入りになる状況でありますから、非常に助かり、これはこれで大変すばらしいものだとは思いますが。それもよかですけど、考え方として、3人目以降の子供たちの就学前の医療費をそっちに持

ってくるとか、そういう考えもできるのかなとか、この辺は子育てにかかわる子育て世代の方々とよく議論して、本当に望まれる助成のやり方を検討していただいて、ぬくもりのある元気な武雄市、「子育てならば新・武雄市」というような具約実現を行ってほしいというふうに思っております。

次に、具約の別項目に入りますけれども、具約の34ですね。この具約の例えばで挙げておられるのをちょっと参考に出しますけど、「“ 大字富岡7777→西浦1の2 ” というように、郵便地名の「復活」を図ります。市民、郷土史家等から成る有識者懇談会で幅広いご議論をいただきます。」というふうになって、これも今議会の市長演告のほうでも触れられておりましたけど、現段階でどのようにお考えになっているかというのを伺いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

お答えいたします。

この住居表示制度というのは、非常に金がかかるものでございます。現在、郵便局と話し合いを進めておりますのは、行政区ごとに大字表示の住所地番を整理することは一応終了しております。というのは、大字富岡7777、これを西浦7777ということについては、郵便局ともほぼ合意に達しておりますので、このことであれば、ほぼもう準備は済んでおりますので、最終的な郵便局との話し合いをして、郵便物を発送するということにはつなげることができるかというふうに思っていますけれども、ただ、地番を西浦1の2ということにするには、非常にまだ費用等もかかりますので、これについては、先ほど具約の中にもありましたように、外部の関係者との懇談会等も持ちながら今後検討したいというふうに思っています。一応今のところ2段階的に進めればいいのかというような感じは持っております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは私の具約の目玉として申し上げていることでありますので、ちょっと補足をしたいというふうに思っております。

基本的にその検討の開始年度が21年度だということで、ちょうどスケジュール的にはそのとおりになっているんですけれども、例えば、大字武雄で申し上げますと、今まで大字武雄となっていたのが、今度、今の我々の事務方の案だと、武雄、上西山、下西山、竹下町、新町、本町、宮野町、蓬萊町、中町というふうに、本当になじみのある名称に、これはスムーズにいきます。しかし、先ほど部長から答弁がありましたように、そしたら、例えば、蓬萊

町の7384番を1丁目何とかというところになると、これは時間もかかりますし、費用も1,000万円単位以上、我々かかることになりますので、どこまでやれるかといったことについては、有識者懇談会の中でしっかり議論をいただこうというふうに思っております。

我々とすれば、これは本当に10年に一遍の事業、あるいは30年に一遍の事業というふうに位置づけています。一たんこれを変えて、また変えるというのではなくて、そのときに、もし有識者懇談会から、いや、もう住居表示まで踏み込もうと。これは有田町とか佐賀市がもう踏み込んでやっていますので、そこまで踏み込んでいこうということであれば、それは真摯にまた承りたいと思いますので、まず事務方の原案としては、行政区に細分化して、今のところ番地がそのまま。今1つ、ちょっと折衷案で考えられるのは、例えば今、番地が7777番とか、もう1万台があります。それを、例えば、上の2つだけの数字じゃできないかと。例えば、7777番だったら77番とか、本当に最後の2つの77まで要るのかということもありますので、これは郵便局との関係も含めて、そういったことについても、しっかり議論をしていこうというふうに思っております。

今、たたき台ができ上がって、今度、有識者懇談会、そしてまた議会の皆さん方にもきちんと示したいと思いますので、また御意見をいただければありがたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

そうですね。先ほどの答弁にありましたが、私も実は有田とか佐賀とか、ちょっと個人的に調べてはおったんですけど、かなりの金額がかかあごたあですもんね。合併特例債なんかもいろいろ用いられて、労力も甚大で、そのためだけに人間も雇わんといかんよというような話も、ちょろっと耳にしたとですよ。そいけん、やっぱりこういった住居表示も、10年、30年の事業と言われると、確かにそうかなと思いますし、ただ、でも、先ほどの話、その前の話から持ってくると、やっぱり絶対何とかして巨額の投資をつぎ込まんばというような事業とは、私もちょっと考えにくいです。市民の皆さんの同意も得られんじやろうと思うわけですよ。そいけん、自分の中では、やっぱり世間話なりなんなりの中で、おたくどこからとなったときに、うち富岡からですもんねとか言うことは絶対なわけですよ、今のあれで。やっぱり西浦からですとか、そいぎ、ああ、大体あの辺ねというのわかるやろうし、ただ、何丁目何番地となるのが理想かもわからんですけど、巨額の投資を使つては、ちょっと幾らなんでもそれは同意は絶対得られんやろうと。いろいろ自分の中でも、これはずっと膨らませて考えよったとですけど、今、道路にネーミングしようとかというような動きがあって、それは物すごくよかことと思うとですよ。ただ、行政区を、また今度、何丁目何番地となると、また細分化してとなあぎ、せっかく今までの西浦だったりとか、武雄町でいえ

ば中町とか、そういう昔からみんなが定着しておる行政区の名前があるもんやけん、そいば使って、さっき部長から答弁が最初にあった、私はその案が一番みんな納得できるとやなかかなて。番地を減らすというのも、もちろんそれも考え方の一つ、おもしろかなと思うとですけど、そればするにも、やっぱり結構な予算がかかってくるとやなかとかな。それはなかか、その辺は試算されとんさあですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

済みません、私の表現力が稚拙で、ちょっと混乱をさせているかもしれませんが、私が申し上げたかったのは、もちろん中町とか、新町とか、あるいは中野であったり、甘久であったりというところは、多分コンセンサスというか、合意がとれると思うとですよね。その後の、そこだけ変えて、例えば、私の実家なんかも1万九千何百番になるわけですね。そこも、できれば手をつけたいというふうに思うわけです。だから、1万九千何百番というよりは、むしろ先ほど申し上げたように、下3けたを省いて19番にするとか、そういった現実的なことができないのかなということでもありますので、何も中町を、例えば、中町を細分化して何とか丁目じゃなくて、その次に続くものですよ、これができないかなというふうには、もうこれは前々から思っておりましたので、だから、私の具約で富岡の7777を西浦の1の2というふうに、7の7でもいいんですけれども、できないのかなというふうに思っていますので、そこに費用を投じるとかなんとかということは考えておりませんので、そこは議員と同じだというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

この件を実現するに当たり、市民の皆さんが行うもの、市役所自体で行うもの、このあたりのいろんな区別等もずっと今後出てくるかと思しますので、その辺の情報もしっかり提供してやっていただいて、混乱を招かないように、ぜひすばらしいものにつくり上げていただきたいなということを考えております。

それでは続いて、スポーツ振興について入りたいと思います。

スポーツ振興についてというのと、ちょっと横道にそれるわけですけど、通告しておりましたので、させていただきますけど、武雄市では、これまでのさまざまな議論すべてにかかわることですけど、やりたいけどお金がないというのが一つの代名詞になっているようなわけですけども、そのためにも、やっぱり定住人口、また交流人口をふやすことが目的とされ、さまざまな仕掛けに取り組まれているわけでございます。しかし、今、それとは別の方法が国のほうで具体的に話が進められているものがあって、ふるさと納税だと思ふんですよね。

これは早ければ来月、何か平成20年4月施行予定とも言われているらしいんですが、応援したいと思う自治体への寄附金相当額が、今お住まいになっている自治体の住民税などから控除される制度のことで、ふるさとを大切にしたい、ふるさとの発展に貢献したいという気持ちを形にしようとするものでありますけれど、受益者負担の観点から賛否が分かれているところでもあるようです。

佐賀県のほうでも、もう既に積極的に何か取り組み準備がされているような感じがするんですけど、このふるさと納税に対する現在の市長の見解をお聞かせ願えたらと思いますけれども、お願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは受け皿をちゃんとしっかりつくろうと思っていますね。伊万里市がもう先行的に走られていますので、そういったことも参考にしながら、どういったことでアピールをできるかどうか、ネーミングも含めて、庁内で今検討をしてもらっています。

その上で、ちょっと1つお願いがあるのが、幾ら制度ばっかりつくっても、やっぱりそれは人から人に介さないと、なかなか寄附というのはいただけないというのは、この立場になって身にしみてよくわかっていきますので、今般、まだ固有名詞は出しませんけれども、大阪のある方から、山口良広議員とうちの古賀副市長が頑張って、1,000万円の寄附を、これはふるさと納税という形で、ぜひ武雄の振興のために寄附をしたいという言葉がありまして、これはやっぱり人から人に対してそういったことになりますので、ぜひそういったことで、私も頑張りますけれども、議員の皆様方も、いや、こういう制度があるんだよ、武雄はこういったことをやりたいんだといったことをぜひ口から口を通じて、そういったことを引っ張って、それが一番きくというふうに思うんですね。それで、先ほど申し上げたように、この事務的に制度をきちんとつくり上げますので、それに落とし込んでいく、乗っかっていくという形にぜひしていきたいというふうに思っております。

これは各市、各町がそういう受け皿づくりというので、私も市長会のメンバーでもありますので、もう動いておられますので、そういった意味で、じゃ、どこであとは差をつけるかという、やっぱりその熱意だと思います。重ねて申し上げますけれども、いや、ああいう人たちがいるよ、その情報でも構いませんので、お寄せいただくのと同時に、ぜひ動いていただければありがたいというふうに思っております。私も一生懸命やりたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

先ほどの答弁の中でありました、その制度づくりの中で1つ提案ですね。今、全国の自治体のあちらこちらで、寄附による投票条例が施行されているのはもう御存じだと思います。都市部では、神奈川県とか埼玉県とか活発に条例化されておりますけど、島根県のほうでも初めて県の条例化が検討されているようです。これは寄附を通して、市民の皆さんや企業や出資者など、多様な人たちがその意向を反映した政策選択を可能とすることによって、多様な人々の参加による個性豊かで活力あるまちづくりやふるさと創生に資することを目的とするわけで、寄附行為そのものが施策を指定してできる制度なんですね。例えば、私が常々言っているスポーツ振興にとか、子育て支援にとか、学校教育の施設の改善にとか、具体的に使い道を指定して寄附を行うということが出来る。先ほど答弁にもありました1,000万円の寄附とかというものの、それをどういったものに使っていくかと。できれば、その寄附をされる方の、がんとに使ってよというようなふうなどの仕組みができればなと。

この仕組みのメリットは、やっぱり市民が政策メニューの中から寄附というマネーの提供を通じて直接政策を選択できることにあるわけで、市民が政策メニューづくりや、その資金調達でもある寄附集め、何かドネーションファイナンスとかと言うらしいんですけど、かわることができて、これはさっき冒頭にも申し上げましたが、幸一君の例も同じじゃないかなと。幸一君を助けようという目的を持って活動して、寄附を集めよう、何とかしてその目的を達成してあげようよというようなものと、ちょっと方向性が似ているんじゃないかなと。例えば、市民が自分のまちにこんな施設が欲しいと考えたときに、自治体のほうに、その施設づくりを政策メニューの一つに加えるよう要望して、そして政策メニューになれば、その事業費としての寄附が集まるように、例えば、それをまた寄附集めをして回ると、そういったのをまちづくりの同意と言わせるふうじゃないかなというようなことです。

もちろん寄附が集まらないこともあるでしょうから、寄附が集まらないときは、その政策にニーズがなかったというのがわかることであって、その際は政策メニューを統廃合すればいいだけのことかなと。何よりも無駄な公共事業が発生しにくくなる可能性が高くなるために、全国のいろんな自治体でも取り組まれているようです。ぜひそういったのを制度づくりを考えられているのであれば、そういったのもひとつ御検討願えたらなという気がしております。

そのふるさと納税でいくと、プロ野球選手では、もう松井とかイチローが今日あるのも、それぞれやっぱりふるさととの大地や風土があったからと。イチローに関していえば、地元への恩返し納税ということで、ふるさとに住民票を置いたまま、オリックスで活躍しておったわけですね。オリックス時代の2000年には5,000万円を超える額を地元のほうに納税したという経緯もありますし、長者番付で上位のユニマットグループの代表ですね。沖縄への恩返しということで、開発を進める自治体に転居され、当初、住民登録した宮古島の上野村というんですかね、住民税収入がそういうことで3倍増になったということで、名誉村民に選ば

れたということです。武雄でいえば、今期、西武ライオンズから東京ヤクルトスワローズへ移籍された武雄市出身のプロ野球選手、福地寿樹選手も、恐らくふるさと納税が実現されれば、納付先としては武雄市を選んでくれるやろうと思うわけですよ。そうなると、やっぱり人間現金なもので、福地選手が活躍するなら年俵が上がる、年俵が上がるとふるさと納税の額がふえとか、それは武雄の税収もふえると。そいぎ、もう一回福地を応援しゅうというようなプラスの好循環が生まれんかなと思うわけですね。市長、福地寿樹選手の後援会会長としても立場があられるんですけど、そういったプラスの循環は考えられんかなと思うんですけど、御答弁願えますか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

全く同感であります。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひ今後の動きを期待しております。

続いて、昨年11月26日に行われたことでありますけれども、関西大学との連携協力に関する協定についてです。

この協定は、地域づくり、教育・文化の振興、人材育成、福祉の増進、産業振興などの分野で相互に連携し、活力ある地域づくりと大学の活性化に寄与することが目的とされており、「関西大学の豊富なノウハウを活用した市民公開講座の開催や、市内小中学生によるスポーツ交流などに取り組むこととしています。」とありますけれども、来年度の当初予算案のほうに計上されておりますまで、この協定の具体的な中身がなかなか見えてこなかったんですけど、このたび関西大学との連携協力事業として23万2,000円計上されております。やっと具体化されてきたかと、私、個人的には喜んでいて一人なんですけど、これについて、今どのようなことを考えられているのか御説明いただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

関西大学の連携協力に関する協定、これはスポーツ以外もありますので、ちょっとはみ出さかもしれませんが、基本的には、市民を対象とした社会教育の観点から、関西大学の教授の皆さんを初めとする、何人かスター教授もいらっしゃると思いますので、公開講座の開催を予定しています。講座の内容は、まだ未定です。それと、議員御案内のとおり、関西大学はスポーツも非常に盛んですので、学生の課外活動の合宿地としての誘致、あるいは小学生、

中学生、高校生との交流も進めていきたいというふうに考えております。１年でどこまでできるかは別にしても、そのスタートラインは来年度できっちり組んでいきたいというふうに思っております。

それと、先々日、関大の森本理事長からの電話がありまして、これは記者会見の場でも森本理事長おっしゃいましたけれども、ぜひ修学旅行で関西大学に連れてきてくれと。僕は引率はしませんが、どういうことかということ、世界最高水準のアイスアリーナがあるわけですね。そこに高橋大輔さんとか、織田信成さんとか、そういった方々がいらっしゃるわけですね。だから、ぜひ生のものを子供たちに見させたいという思いから、宿泊もほぼ無料で提供するというのも電話でおっしゃいましたので、これは聞かれたらぜひ言ってくれといったこともありますので、関西大学は武雄市のスポーツ、特に教育の中でもスポーツに関して、ぜひ貢献をしたいということをおっしゃっていますので、そういった意味からでのスポーツを初めとする交流、特に小学生、中学生を中心として、そういった交流を進めていきたい、目に見える交流を進めていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

１番上田議員

○１番（上田雄一君）〔登壇〕

もう同じ、私が考えておったことをそのまま言われましたので、これはさすがと思いました。ぜひ私も、やっぱり関西大学のスポーツチームのキャンプを武雄でしてほしいなど、相互間交流と考えるぎ、やっぱりこっちからも何かなからんとと、それを修学旅行で、さすがと思いましたね、今んとは。

それでは、続いて質問に入りたいと思いますけれども、次に、日本の国民の中で、週１日以上スポーツを行っている人口というのがおよそ37%で、佐賀県はそれを50%まで上昇させたいというねらいから、地域総合型スポーツクラブの創設を促されているわけです。武雄市では、もう既に地域総合型スポーツクラブ、たけおスポーツクラブが発足し、活動されているわけですが、現在どのような活動が行われているか御説明いただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

若干長くなるかも知れませんが、紹介させていただきます。（資料を示す）

ただいま市内全家庭に、こういうたけおスポーツクラブの募集の便りが届いているころかと思えます。20年度の募集を３月１日から始めまして、既にもう100名を超える方が応募いただいているという状況でございます。昨年度が295名の方が参加いただいております。

たけおスポーツクラブの事業は、県下でもスポーツクラブのモデルだと言われるほど高い評価をいただいております。どこでも、いつでも、だれでもができる健康志向型のスポーツ

クラブということで、高い評価をいただいているわけでございます。

その中でも、6つのサークルがございます。バドミントン、ミニテニス、ピンポン、ボウリング、パークゴルフ、リズムダンス。それから、4つの教室、自然と風ふれあいのウォーキング、太極拳、ゴルフ、手づくりパン。それから、交流会として、グラウンドゴルフ、ナイトウォーキング、グラウンドゴルフは春と秋、それから虹の松原ウォーキング、“夢”大吊橋ウォーキング、巨峰狩り、ボウリング大会と、スポーツクラブとして、これらの事業を展開いたしているところでございます。

これが小学生から高齢者まで参加でき、1人で複数のサークルに申し込むことができるわけであります。私も誤解してしまったところがありますけれども、これは個人会員が、高校生以上2,500円、そして保険料として1,500円、4,000円かかるわけですが、それにかたれば、サークルは幾つも複数参加してよいということでございます。それから、中学生以下は1,500円と500円の保険料ということになっておるところでございます。それぞれ体育指導員さん、それから運営委員の方、それぞれのサークルの代表の方が運営の中心となって、自主的に進めてもらっているという非常にいいスポーツクラブだと思っております。また、チラシには、特典ということ、あるいは協賛をたくさんいただいているという状況でありまして、今後のスポーツ活動の一つの大きな礎になって、また発展するものとなるものと期待をいたしております。よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

1 番上田議員

○1 番（上田雄一君）〔登壇〕

どのような活動をされているかで、もう来年度の取り組み等々も御紹介いただきましたので、質問は大分減ってはきましたけど、たけおスポーツクラブですね。もう取り組みが早くて、なおかつ今年度295名の会員数と、まずまずのやっぱり結果ば残しておるわけで、ほかの自治体からも物すごく注目されているらしくすもんね。それなのに、先ほど答弁ありましたけど、市報と一緒に全戸に配布をされておるという話ですけど、新聞の折り込みとちょっと一緒にしちゃいかんところはあると思うんですけど、やっぱりどうしても3%から5%ぐらいの宣伝効果しか望めんというところが、今、新聞の折り込みチラシには言われやすいとですよ。

そいぎ、私、どうしても広報の宣伝に関して、やっぱりちょっと物足りんなというところがあって、実はそれこそ、きのうの夜なんですけど、知人との会話の中で、最近太りぎみやけんが、ちょっとメタボリックを気にしようということで、やっぱり何かスポーツばしたけど、ブランクも長過ぎて、昔はテニスしよったけど、今はもう本格的なテニスはしい切らんですもんねと。そいけん、何かなかですかねという話やったけん、ここ行ってんやと、たけおスポーツクラブにというごととして紹介しよったら、ずっと説明しよったら、おもしろか

ごたあですねと。そいぎ、どけ行くぎわかるとですかという話やったですもんね。こがんと
きでも、市のホームページに、こういうとをもっと表立って紹介してやっておれば、やっぱ
り情報ばとれるのは、もう市のホームページでは全部とれるよというぐらいしておってやれ
ば本当にいいのかなと。武雄市の例じゃなかですけど、年配の方でも、週3回通院しよった
のが、例えば、週1回の通院になって医療費の削減にもつながったという声も、何かよその
自治体ではあるようです。元気で、なおかつ生きがいを提供しているスポーツクラブの発展
というとも、そのままスポーツ振興にもつながるんじゃないかなと。それもスポーツ人口の
底辺の拡大にもつながるわけで、この辺もぜひ考えてほしいなと思うわけです。

前回の12月議会でも申し上げました、ホームページのカテゴリーの件でも、スポーツのジ
ャナルをトップページに入れ込んでいってすると、やっぱりヒットする確率が物すごく上が
ってくるよというような御答弁をいただいて、残念ながら、まだちょっと実現とまでは行っ
ておらんようなんですよね。きのうも先輩議員より、定住特区による、ホームページでわか
るようにしたほうがいいというふうな提案をされておりましたけど、まさにそうやろうと私
も同感した次第です。スポーツクラブの紹介とあわせて、今の市のホームページも、昨年度、
新規で七百数十万円、更新の手数料でまた二百何十万円のトータル1,000万円ぐらいかけて
おるわけやっけんが、やっぱりその分で、何とかもっと1,000万円でも安うついたと言える
ぐらいのホームページにしてほしいなと。こういうことも、ちょっとお願いになります
けど、工夫いただいて、済みません、短いですけど、私の一般質問を終わらせていただき
ます。ありがとうございました。